スポーツで人の心を豊かにし地域・社会の未来に貢献する

所属していたクラブチームのスタッフから相談を受けて訪問した児童養護施設。そこで待っていたのは、子どもたちの熱烈な歓迎でした。サッカーを通じて交流し、成長を支援したい――。現役プロサッカー選手の活動と今後の目標を聞きました。

㈳F-connect 代表
小池純輝

東京ヴェルディで活躍する現役のプロサッカー選手。「フットボールで繋げる、フットボールが繋げる」をコンセプトに、2015年に梶川諒太選手と共に同団体を設立。活動5年目の2019年に法人名を㈳F-connectに変更。社会貢献と、引退後も含めた選手自身の成長を目的とした団体への発展を目指す。
https://f-connect.themedia.jp

共同代表の梶川諒太選手（徳島ヴォルティス所属）。「施設の子どもは距離感がとても近く、ずっとくっついてきてくれるのがかわいい」と笑顔で話していました

毎年12月には、神奈川県内の児童養護施設の子どもを一堂に招いてサッカーイベントを実施。昨年は4人の現役プロサッカー選手が参加しました

子どもとプロサッカー選手の両者が「未来を描ける場」を構築したい

サッカーを通じて児童養護施設の子どもと交流し、その成長を支援するF-connectは、現役のプロサッカー選手が運営する団体です。

「きっかけは2014年。当時所属するチームのスタッフから相談を受けたことでした」と語るのは代表の小池純輝さん。のちに共同代表となる梶川諒太さんと鎌倉の児童養護施設を訪問したところ、そこで二人を待っていたのは「ようこそ」と書かれた横断幕。そして、子どもたちからの熱烈な歓迎でした。

後日スタジアムに彼らを招待すると、90分の試合中ずっと「小池選手、頑張れ！」の声援が。それがうれしくてシーズン終了後に同施設を再び訪れると、前回以上に喜んでくれる姿に感動したそうです。

この経験から、「継続して支援をしていきたい」という思いを募らせて団体を設立。施設を訪問して一緒にサッカーを楽しむだけなく、「プロサッカー選手になる夢」を叶えた小池さん自身の話をしたり、オリジナルグッズの販売などで得た収益を基に定期的にスタジアムに招待するなど、その活動内容はさまざまです。

子どもたちとの交流がモチベーションにつながる

「この活動が本職のサッカープレーに悪影響だと言われたくないんです」。その言葉を証明するように、小池さんは2019年にJ2内で総合得点ランク10位となる16点を獲得。チーム最終戦ではハットトリックも決めました。

試合に出場しなかったり、ゴールを決められないと、「なんで？」と素直に聞く子どもたち。彼らの前で出場して、ゴールを決めたい。それがモチベーションにつながっています。

設立6年目を迎え、現在は8人のプロサッカー選手が活動に参加。神奈川、東京、徳島など、自身が所属するチームの近隣施設を訪問しています。最近では選手引退後の人生を見据え、現役中から将来のキャリアを形成する「デュアルキャリア」対策も強化。LGBT検定の取得や外部ビジネス研修などにも積極的に取り組んでいます。

「30歳前後の僕らは10年後、おそらく現役を引退しているでしょう。でも、その後もF-connectの一員として活動を続けていきたい。引退後のキャリアモデルを確立すれば、後輩選手がそれに続くはず。だからこそ『子どもの夢』と『選手のデュアルキャリア』を実現させたいのです」と抱負を話してくれました。